

文教大学情報学部 社会調査ゼミナール研究報告

大学生の就職観に対する意識調査
(大卒フリーターになりえる要因および増加の原因)

2006年2月

情報学部 広報学科 3年

a3p11120 中田 貴文

目次

第1章 研究の概要

1 . 1	研究の目的と背景	...	2 ~ 3
1 . 2	研究の方法	...	3 ~ 4
(1)	進捗経緯		
(2)	調査概要		
1 . 3	成果の概要	...	5

第2章 研究の成果

2 . 1	文教学生の就職観及び意識調査の結果	...	6
2 . 2	文教生の授業外活動	...	8
2 . 3	進路に対する意識調査	...	9
2 . 4	両親と就職観に対する調査	...	1 2
2 . 5	アルバイトとフリーターに対する調査	...	1 3
2 . 6	入試別意識調査	...	1 4

第3章 まとめと今後の課題

- ・参考文献
- ・参考資料

資料 1: 調査資料「大学生の就職観に対する意識調査」単純集計結果

資料 2: フリーターとニートの定義

第一章 研究の概要

1.1 研究の背景と目的

若年層の就業意識の変化と就業行動

（変化する若年層の意識）

ヒアリング調査によると、最近、生徒の就職や職業に対する目的意識の希薄化が指摘されている。自営業比率の低下などで、昔に比べて仕事というものが見えにくくなっており、その内容や目的についての具体的なイメージが持てなくなっていることが、経済的豊かさとともに、その一因と考えられる。

（フリーターの意識）

近年、増加しているフリーターの意識を類型化すると、確固とした将来の目標を目指して、それに向けた努力をしているが、日常の生活のための収入を得るためにフリーターをしている「自己実現型」、正社員になることなど、将来の漠然とした目標はあるが、それに向かったの取組は特に行っておらず、現状に対する不安を抱きつつ、当面はフリーターをしている「将来不安型」、

今後も継続してフリーターをしていくとする「フリーター継続型」、家庭に入りたい等の「その他」の四つに分類できる。

（フリーターのその後）

正社員化の希望については、女性の二十歳未満では七割弱が希望しており、また、男性では、より年齢が上がるにつれてそうした希望が高まるが、正規雇用への移行がうまくいかない者もある。これには、フリーター期間における能力開発機会の乏しさも影響していると考えられる。

（離転職、フリーターとキャリア形成）

転職回数が多いほど賃金が低下し、離職期間が長期化する傾向がみられる。離転職に際して、先の見通しを立てた上で失業を経ずに転職をした場合は、そうでない場合に比べて、前の就業経験の活用程度、転職への満足度、賃金増加の点で、利点が多い。先の見通しの無い離転職の増加は、本人のみならず、社会にとっても技術・技能の蓄積等の面で損失が多い。

本来かなえたい夢があり、そのために就職しないで生きるという選択をした若者。

（1987年に「フロム・エー」の道下裕史が以前までの「ブータロー」という言葉に代わって「フリーター」という言葉を使い出したのが始まり。）

↓

変質化

↓

高卒、専門学校卒だけではなく大学を出ても正社員にならないでアルバイトで食いつなぐ若者（現在417万人「国民白書」）飲食業やサービス業のチェーン化によるアルバイト雇用の増加。

若年者の就業行動の特徴として近年注目されているフリーターの増加や自発的離転職に焦点を当て、これから社会に出て行く大学生に就職に対する意識調査、フリーター(フリーター予備軍)になる原因や就職するに当たっての大学生の働きがい・生きがいを探ることを目的とする。また大学生の就職のための準備行動(バイト、資格習得)について調査することで、大学生の就職観について知る。つまり大学に入った動機からその学生はどういう学生生活を送りそして、どのような進路をたどっていくのか。それらのことを知ることでこの調査を自分の就職活動に役立てて生きたい。

1.2 研究の方法

(1) 進捗経緯

リクルートワークス研究所の Work 65 巻を参考に、Web で「平成 13 年大学等卒業業者就職状況」労働省のサイトから現在の大卒者の就職状況を調べた。

- 大卒フリーターはどのくらいいるのか？
- 大卒フリーターはどの地域に多いのか？
- 大卒フリーターどのような経緯をたどるか？
- 大卒フリーターは本当に就職できないのか？

ということをテーマに、現在の大卒者の動向を研究しその中で、大学生がフリーターになる理由は雇用が無いだけではないということがわかり、それではなぜ今でも大卒フリーターは増え続けているのか。

私は大学入学時からの学生の授業に対する取り組み方、学生生活の過ごし方、両親との考えの違いにあるのではないかと考えそのことと調査票を作り調査を実施した。

(2) 調査概要

a. 調査意図

調査目的で述べた通り学生の入学理由の曖昧さ、そしてそういう学生は学生生活もなんとなく将来のことを考えずに生活して、結果的にやりたいことが見つからないで、卒業を迎えてしまうのではないのだろうか。反して、入学理由が明確で意志が強い学生は、就職のためにさまざまな形で自分の将来のための活動をして生活し、自分の望む進路に向かっていくのではないのだろうか。前者にしても後者にしても、前者はやりたいことが見つからずにフリーター、後者にいたっても、自分のやりたいことをやるために、フリーターという道を選ぶという仮説を元に調査していきたいと考えた。

b. 調査対象者

文教大学の学生(2・3・4年生)

大学生として進路を考え始める時期として、意識し始めるものを対象としたかった。

回答者概要

表 2 - 1 - 1 回答者と母集団の比較

	2 年	3 年	4 年	計
回答者	34.5	31.4	34.1	100.0
湘南キャンパス 学生	39.4 (799)	44.7 (727)	15.9 (790)	100.0 (2316)

表 2 - 1 - 2 回答者と母集団の比較

	男子	女子	計
回答者	50.0 (66)	50.0 (66)	100.0 (132)
湘南キャン パス学生	56.5 (1300)	43.5 (1016)	100.0 (2316)

c.調査方法

調査表調査でひとつの授業クラスと手渡しで依頼することで調査を行った。

d.質問項目

- ・大学生活の中で自分自身将来のために今現在、準備行動しているか？（将来につながるアルバイト・資格の取得・勉強など）
 - ・将来やりたいこと（就職したい企業、進みたいジャンル、方向性）は決まっているか？
 - ・大学に来た理由（将来の夢ためのため？それともなんとなく？）大学卒業後すぐ就職を考えているかどうか？
 - ・就職浪人してでも尽きたい職場に行きたい。
 - ・就職や将来のことで親世代とのギャップを感じるか？
 - ・あなたはフリーターとして生活していけるといいますか？
- という質問項目を元に調査票を作成した。

e.回答数

依頼数は 1 3 2 票で回収数は 1 3 2 票

この調査の特徴的な点は、入学理由などから回答者をグループ分けして、学生生活の過ごし方にどのような変化を見られるか、将来の進路についてはどうかを調べている。

1 . 3 成果の概要

今回の調査で私自身学んだことは大学に入学したときの意識が学生生活に大きく影響していて、その生活も自分の進路意識に関わっているということが分かった。フリ - ターの増加にあたる原因それは大学という環境で、どのように生活してどのように進路について考えているかが、大きく関わっているのではないだろうか。ほかにも社会の変化、就職観の変化、若者の考え方の変化などもあるだろう。

しかし、私がこの結果から言いたいのは、大学という環境は進路を考える上でとても大事な時期であり、その過ごし方によっては、そのひと自身の意識、つまり将来、進路、就職に対する考え方を形成するための重要な役割を果たしているのではないのだろうかと思う。

調査の結果から、やはり大学入学時の意識の違いで、どのような大学生活を送るかがある程度決まっていて、学生生活の送り方によっても進路に対する意識や行動が変わっていくことが分かった。初めて立てた仮説のように、大学の志望理由が明確な学生は、学生生活の授業に対する態度、そのほかにも就職に対する準備も怠っていないことがこの結果からも言えるだろう。そして自分の進路に対する考え方やその意思も、大半は大学入学時に決まってしまうということも分かった。

第2章 研究成果

2.1 文教学生の就職観及び意識調査の結果

文教学生の志望動機及び就職観

まず大学の志望理由の設問1の結果からグラフ化して説明していく。

図2-1-1 文教大学入学理由 (n = 275)

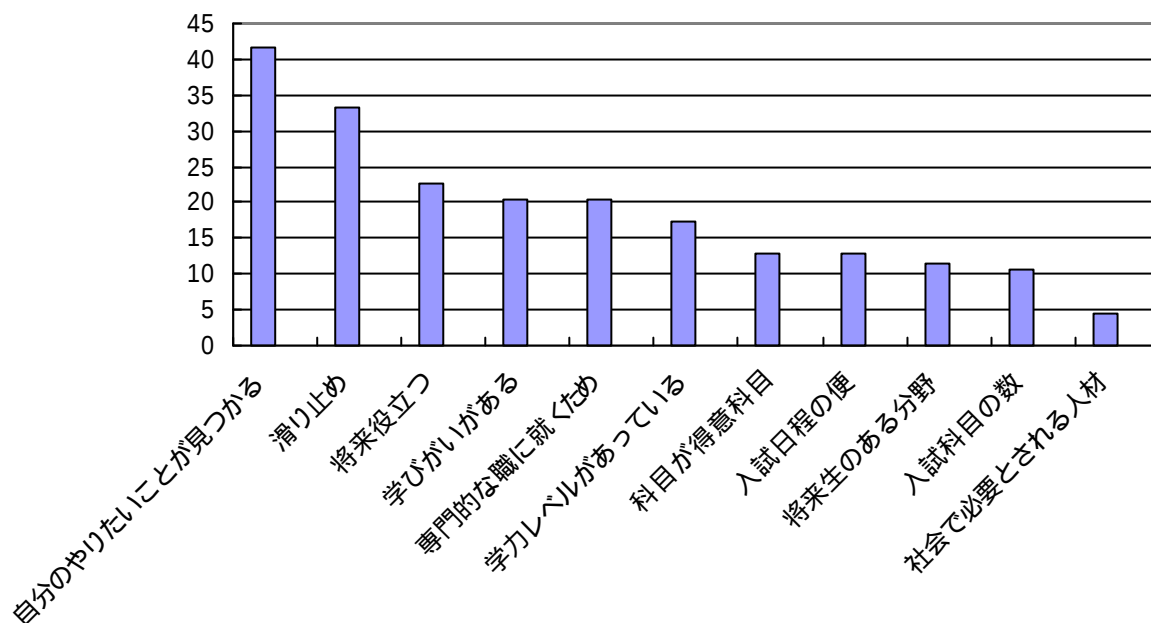


図2-1-1は文教大学に入学した志望動機を3個以内の複数回答で調査した結果を表したグラフである。

最も多いものは自己開拓願望の現れである「自分がやりたいことが見つかることを期待したから」という設問で、約4割の人がそのような願望を持って入学してきたことがわかる。

次にこのグラフで注目する点は、「滑り止めのために入学した」という理由が二番目に多33.3%、悪い言い方をすると希望する大学が落ちたので仕方なくという、偶然的に入学した ということと言えるのではないだろうか。

このほかにも、7・8・9・10・11の項目はどちらかといえば曖昧で明らかに自分の意思に反しているのではないのかと考えられる項目である。この調査では、このような学生がどのような学生生活を送り、そしてどのように将来を考え、進路を選択しようとしているかを集計して考えていこうと思う。

そして最終的なテーマである大学生フリーターの増加の原因はそのような考えを持って大学に進んでしまった結果といえるのではないだろうか。

次のグラフは問1の設問をグループ分けし、そして大学入学理由の回答者に得点をつけて、グループ分けをした。1～4の設問は大学に来た理由が明確で意志が強いといえる意味で2点、5～6は理由としては曖昧なので1点にして、7～11の設問は大学に対する愛着心もしくは自分の意思に反して、偶然入った傾向が強いので0点として、その結果をグラフ化してみようと思う。

図2-1-2大学志望理由得点上の分布
(n=132)

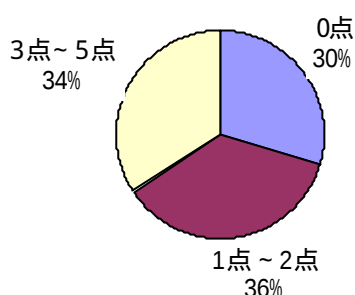


図2-1-2で得点が高いほど、明確な理由・将来、大学に対する意識の高さを表している。この結果から0点という人が3割で1～2点を合わせると約7割に及ぶ、いかにこの大学に入った理由が曖昧かを知ることが出来る。

先ほどの結果を元に次のグラフは大学志望理由から見る大学の平均出席率をグラフ化したものである。

図2-1-3 得点別グループから見る平均出席率

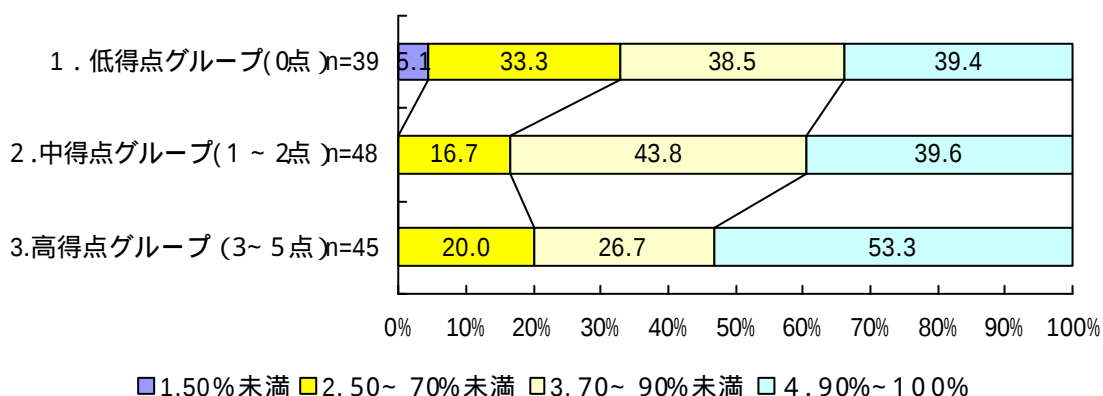


図2-1-3から読み取れる結果は、やはり大学入学志望動機において、大学に対する意識が低いほど、授業の出席率も低くなっていることがわかる。

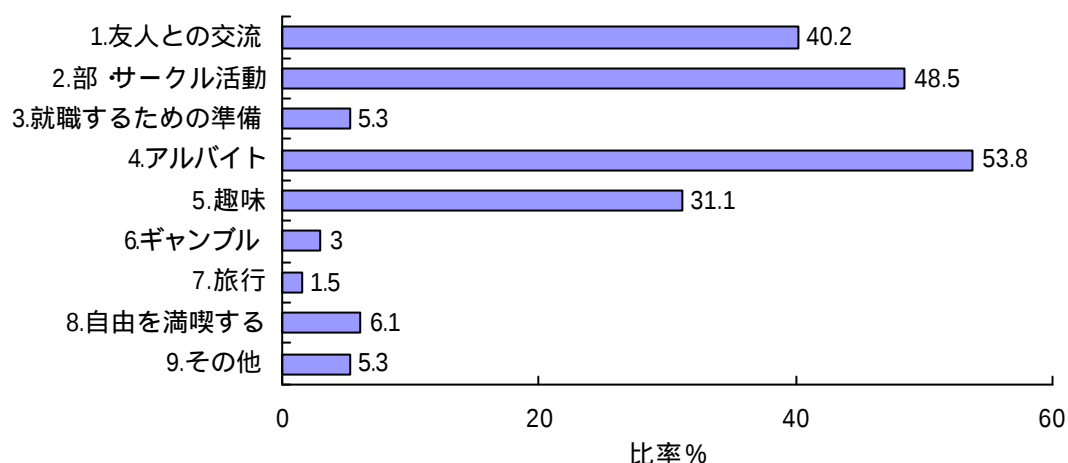
低得点グループに注目すると約4割の人が50～70%の出席率だということがわかる。逆に、高得点グループは5割の人が90～100%で出席率が高いことがグラフから読み取ることが出

来る。

2.2 文教生の授業外活動

次のグラフは、大学生活で授業以外の時間で何をして過ごしているか。という3つ以内の服す回答の質問の結果を表したものである。

図2-2-1 大学生生活の余暇の過ごし方 (N=257)



グラフの中でもっとも多いものはアルバイトで、約5割を占めています。2人に1人はアルバイトの時間を費やしているということがこのグラフから読み取ることができます。

次に部・サークル活動、友人との交流と続き4番目に趣味という項目が入ってきている。

大学生にとって友人との交流、部・サークル活動をするうえで、どうしても遊ぶお金が必要になる、アルバイトは大学生の生活の中で必要不可欠なものになっているのではないだろうか。

このことからアルバイトをする理由となるものは何なのかを、「アルバイトをする理由は何ですか」という質問から説明したいと思う。

図2-2-2 アルバイトをする理由は何か

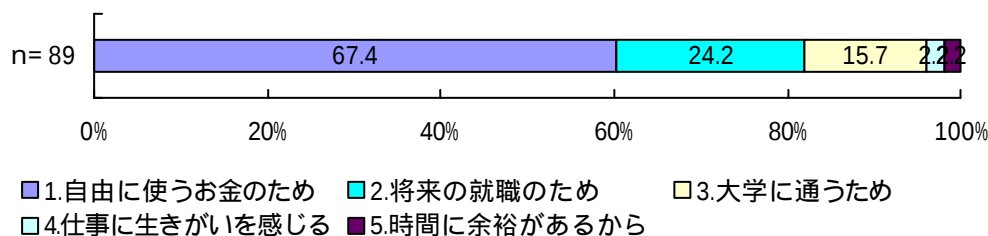


図2-2-2で、7割の人が「自由に使うお金と答えている。」設問2の2番目.3番目に多かった友人との交流にしても、サークル活動にしても、大学生にとって自由に使えるお金は重要な

もので、どうしても授業以外の時間は、アルバイトに力を入れてしまうと言えるのではないだろうか。

2.3 進路に対する意識調査

図2-3-1 得点別グループから見る授業を選ぶポイント

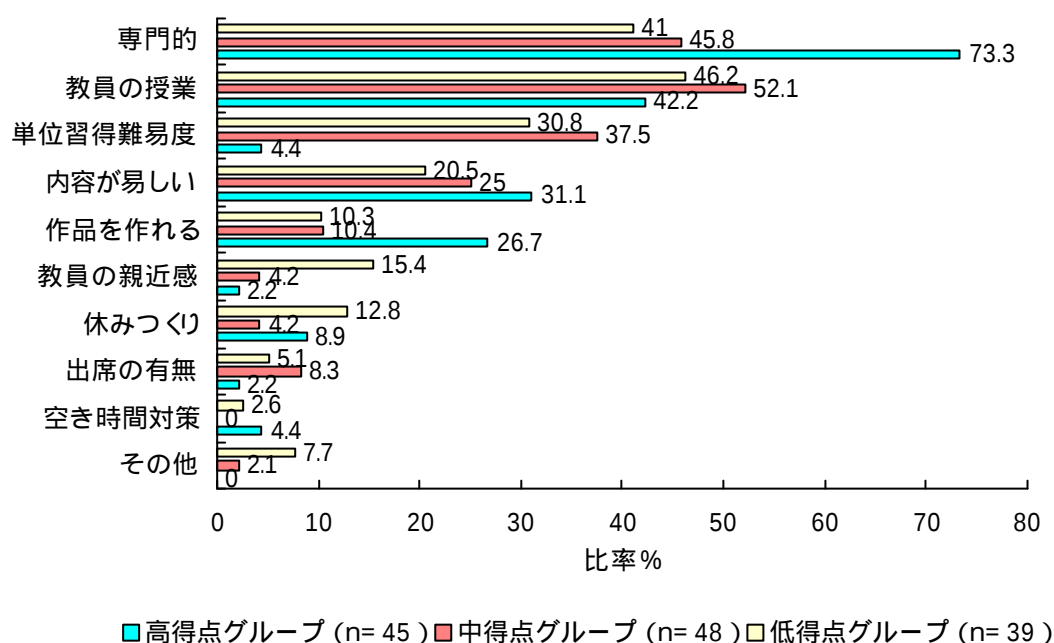


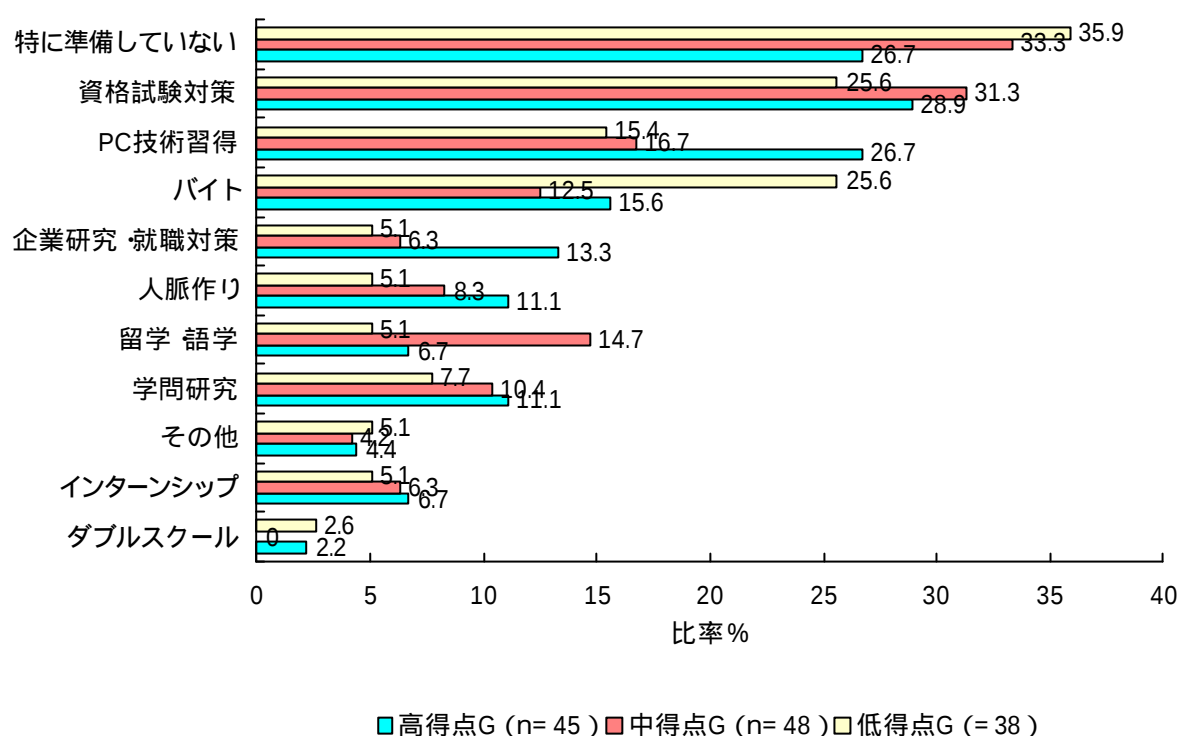
図2-3-1は入学理由から見る大学に対しての意識別に得点化して、得点ごとに三分割したものと、授業を選ぶポイントをクロス集計してその結果をグラフ化したものである。

図2-3-1を見ると低得点グループはほかのグループに比べて単位習得難易度、休みづくり教員の親近感などの点で抜き出ている。

それに比べて高得点グループは、単位習得難易度などに関係なく、自分のとりたい興味のある授業をとっているのがこのグラフから読み取れるだろう。

単位得難易度の項目にいたっては、高得点グループは明らかに少ないのがわかる。つまり、入学志望動機によって、授業選択に対する意識も比例して、はっきりした入学動機のある回答者は授業選択に対する意識も高いといえるのではないだろうか。反して得点が低いと、授業に対する意識も低くなり単位をとるためだけに大学に通うようになっているのではないのだろうか。

図 2 - 3 - 2 得点別グループ別就職対策



志望動機によって進路のために実際に準備しているかどうかをグラフに現した。

図 2 - 3 - 2 から読み取ることができる高得点グループの傾向はやはりコンピューター技術の習得、企業研究並びに就職対策にいたっては群を抜いて多い。

全体的に見てもほかのグループに比べて、少しずつではあるが上回っている。高得点グループは「特に準備していない」の項目でもっとも低い。

逆に低得点グループは、バイトや特に準備していないがほとんどで、ほかの項目ではやはり劣っている。

この結果の中で興味深いのは、試験資格習得が全体的に高水準を保っているということで、大学生がいかに資格を取ることは将来のためになると考えているかということがいえるのではないだろうか。

図 2 - 3 - 3 三分割別の希望進路先

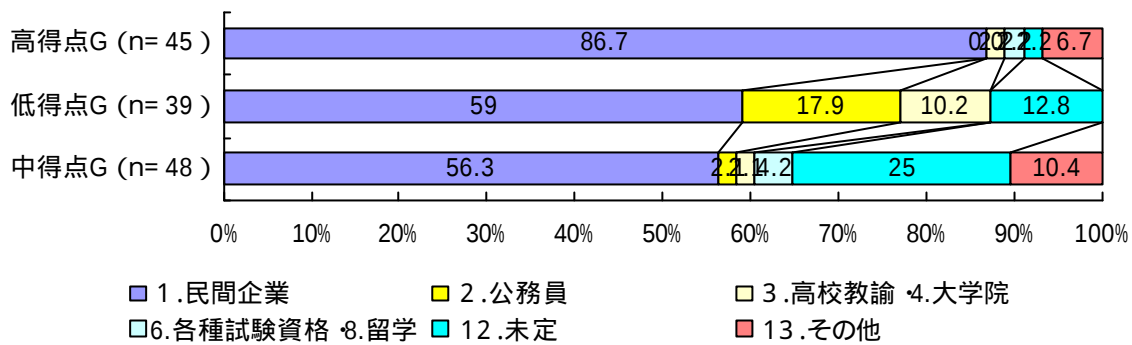


図 2 - 3 - 3 は得点グループ別の希望進路先についてグラフ化したものである。

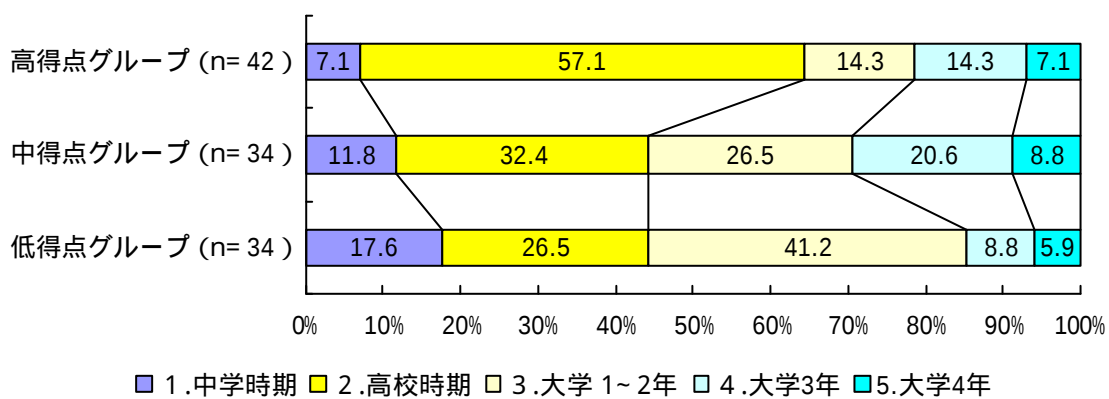
まずは高得点グループから見ていくと約 87%の回答者が民間企業と答えている。この結果はほかのグループよりも群を抜いて、高いことがわかる。行きたい就職先もしくは業種先が決まっているのではないのだろうか。

逆に低得点グループは、公務員や高校教諭・大学院などの資格や試験が必要な業種が多いことが分かる。

未定と答えた人が最も多かったグループは意外にも中得点グループだった。中得点グループの曖昧さがこの結果を表しているのではないだろうか。

次に進路を考え始めた時期について、図 2 - 3 - 4 に示す。

図 2 - 3 - 4 得点グループ別の進路を考え始めた時期



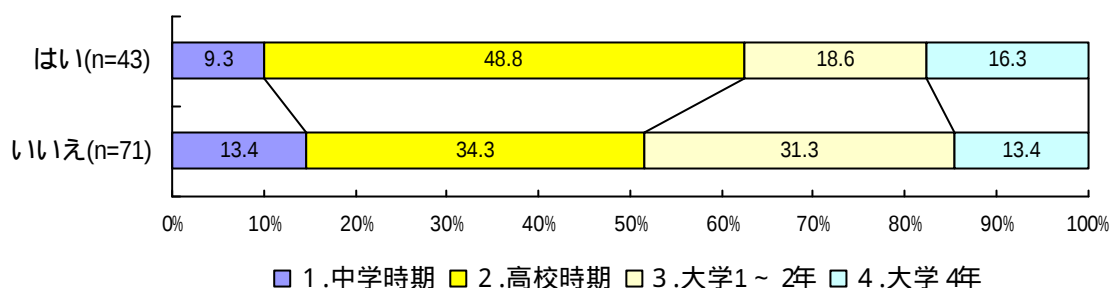
高得点グループの 6 割弱が高校生もしくはそれ以前に考えているということがこのグラフから読み取ることができる。

ほかのグループに比べても、ダントツで多いのが分かる。そして、ティグループ回答者は大学 1 ～ 2 年になって考えたという人が大半を占めている。

この結果から考えると大学の志望動機がはっきり明確になっている人は、将来の進路もしっかりしているということがいえるのではないだろうか。

図2 - 3 - 5は進路を考え始めた時期による、その進路に対する思いについてグラフである。進路に対する思いとは、あなたは就職浪人やフリーターという道を選んででもあなたの夢をかなえたいですか。という質問をして、本人の夢に対する思いを回答してもらった。

図2 - 3 - 5 進路を考え始めた時期から見る夢に対する思い



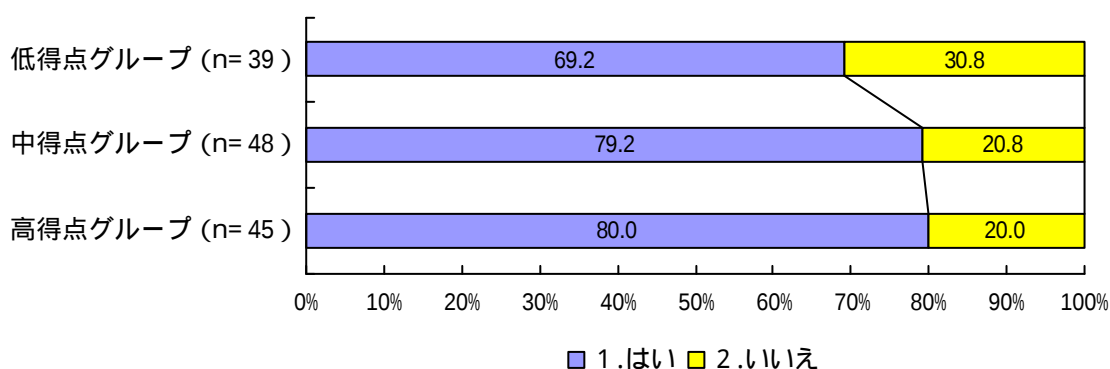
私の仮説では、ほとんどの大学生は、現実をみながら無難に希望しない職種でもとりあえず定職にという学生がほとんどだろうと考えていた。「いいえ」という答えが大半を占めると考えていた。しかし、その仮説とは反して37.7%の人たちがそういう道を選んででもやりたい仕事に就きたいという答えが返ってきました。そこで将来の夢に対する思いは、進路を考え始めた時期と関係しているのではないか。という仮説を立てて集計した。

やはり高校生以前から考えていたという回答者は半数を超えているのが分かります。この結果から、進路について考え始めた時期が早い人はその進路に対する思いも強いといえると思われる。

2.4 両親と就職観に対する調査

図2 - 4 - 1は3分割別両親と会話をするかどうかを調査集計した結果をグラフ化したものである。

図2 - 4 - 1 得点グループ別の両親と会話の皆無



調査前にした仮設の通りに低得点グループは両親との会話が少ないということが分かった。

この結果から果たして両親と話をしたときに一番両親とギャップを感じているのはどのグループなのか。下のグラフで表してみよう。

図2 - 4 - 2 得点グループ別の両親とのギャップ

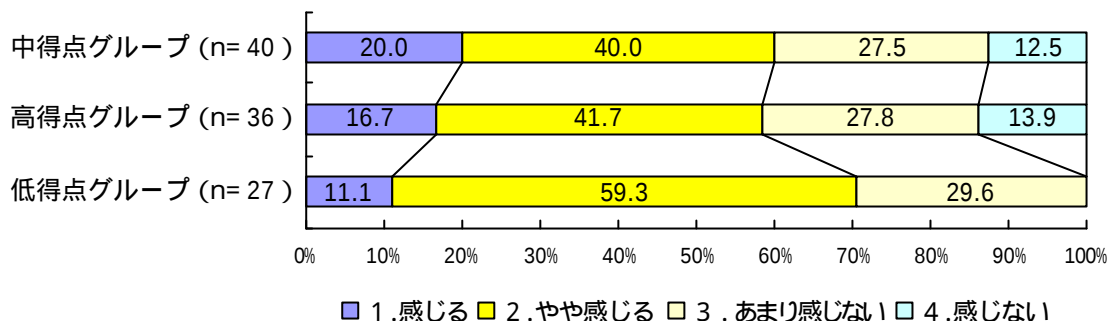
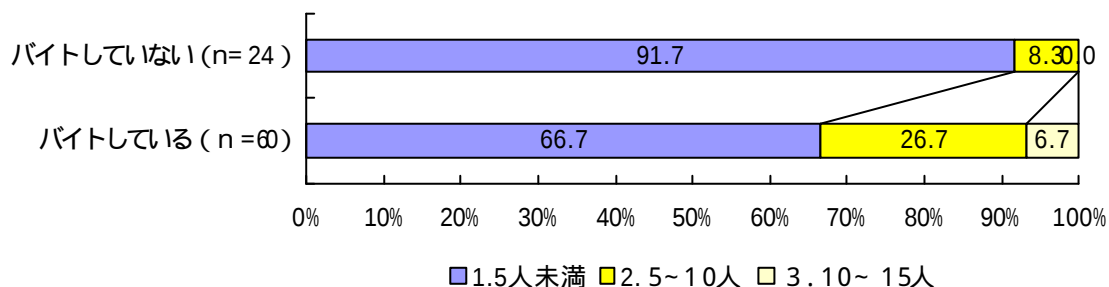


図2 - 4 - 2 で象徴的なのは低得点グループの7割が回答者両親とギャップを感じていることが言える。

高得点になるにつれて、ギャップを感じるという答えも少なくなっていることが明らかであろう。しかし、個人的な見解だが、近年の若者と両親世代の就職観では、どうしても違いすぎているのではないだろうか。

2 . 5 アルバイトとフリーターに対する調査

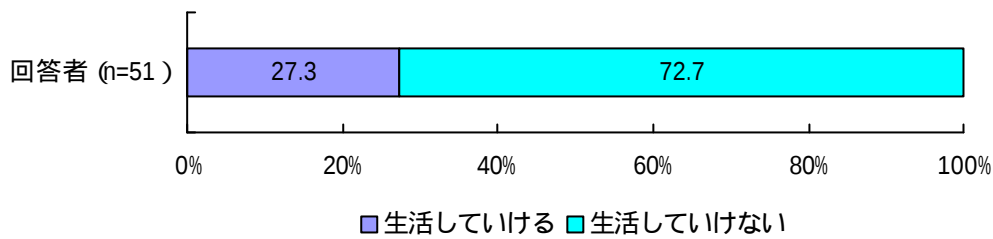
図2 - 5 - 1 バイトをしている・していないによるフリーターの知り合い



アルバイトの皆無によってフリーターとの接触度も多いかどうかを調査したグラフである。バイトをしているとやはりフリーターの知り合いが多いという結果が出た。いかにバイト先にフリーターの割合が多いかが分かるのではないだろうか。

並びに、同様に行った調査で、「あなたはフリーターとして生活していけるとおもいますか。」という質問に対する結果をグラフ化してみようと思う。図2 - 5 - 2 から、まずこの質問に対する期待した答えは、ほとんどの人が生活していけないという答えが、返ってくると仮説をしていた。

図2 - 5 - 2 フリーターとして生活していけると思いますか

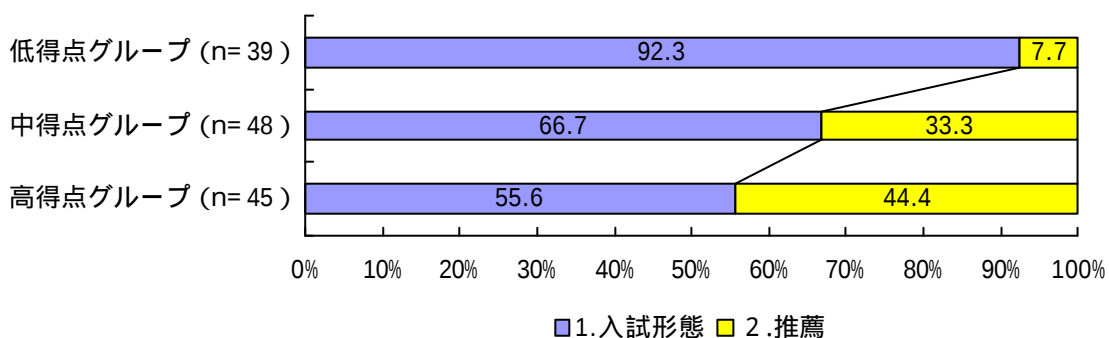


実際に出た調査結果は、約3割の人たちが生活していけると返答、約3割の人が定職に就かなくても生活していけると考えていることが分かった。

2.5 入試別意識調査

得点別の入試形態の差についても調べてみた。その結果を図2 - 6 - 1に示す。

図2 - 6 - 1 得点グループ別入試形態



驚くことに低得点グループの92.3%の人が一般入試という結果が出た。中得点グループになると急激に66.7%まで下がり、入試形態によっても、大学に対する意欲に差があるということが分かった。

第2章 まとめと今後の課題

「とりあえず大学」、「とりあえず就職」という考え方がフリーターを増加させる原因になっているのではないだろうか。大学はけして自分に与えられた自由な時間という考えだけではなく、社会に出て働くための準備期間ということを忘れてはいけないのではないのだろうか。

今回のサブテーマである大卒フリーターの増加、このほとんども、大学志望の曖昧さ、偶然的に大学に入った人がほとんどなのではないだろうか。というのも、入学してきたときの意識の違いで、すでに自分の進路を考えているという点で劣ってしまっていて、ただなんとなく大学生活

を過ごしてしまい、本当に進路と直面したと気に初めて自分が就職のために何もしていないことに気づき、結局、自分が進みたい進路を見つけられないまま「とりあえず就職を」という気持ちのまま就職先を決めてしまっていることがいえるだろう。これは仮設に過ぎないが、今この結果から曖昧な動機で就職先を決めてしまった人は長続きをしないので、またやりたいことを見つけるためにフリーターという道を選んでしまうのではないかと考える。

今後の課題として、今回の調査では、4年生のアンケートをとることが出来なかったのもうちょっと、現在進路と向き合っている人たちの答えも知りたかった。今回の調査してみて、私は、今の大学生の就職に関する考え方やそれにいたるまでの過程を小さい範囲だが知ることが出来た。これからの将来このようなフリーター増加という社会現象がどのように変わっていくのかに興味深く注目していきたいと思う。

参考文献

- | | | |
|-----|------------------------|--------------------|
| 文献 | Works 65 巻 | リクルートワークス研究所 |
| Web | 「平成 13 年度大学等卒業者就職状況調査」 | 労働省 |
| | 「平成 12 年上半期雇用動向調査結果速報」 | 労働省 |
| | 「日本人の意識調査」 | NHK 放送文化研究所 |
| | 「2000 版・労働経済の分析」 | 厚生労働省（2000 年版労働白書） |
| | 「採用ブランド調査 2005 年」 | RECRUIT |

資料 1

大学生の就職観に対する調査

情報学部 広報学科 ハッ橋ゼミ 中田 貴文

- ゼミ研究のために調査しています。回答は無記名ですので、率直にお答えできれば幸いです。

問1 あなたが文教大学に入学した理由は何ですか。(○は3つ以内)

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1 . 学びがいがありそうだから | 20.5% |
| 2 . 将来性のある分野だと思ったから | 11.4% |
| 3 . 社会で必要とされる人材になれそうだから | 4.5% |
| 4 . 専門的な就職に就きたいから | 20.5% |
| 5 . 自分がやりたいことが見つかることを期待したから | 41.7% |
| 6 . 将来役に立つことを学べそうだから | 22.7% |
| 7 . 入試の科目が少なかったから | 10.6% |
| 8 . 受験科目が自分の得意科目だったから | 12.9% |
| 9 . 滑り止めのため受験した | 33.3% |
| 10 . 入試日程が自分に合っていた | 12.9% |
| 11 . 学部が学力レベルに合っていると思ったから | 17.4% |

問2 大学生活の中で授業や学習以外の時間で何をして過ごしていますか。

(1) ○は2つ以内で付けて下さい

(2) その2つのうちより力を入れたものに をつけてください

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 . 友人との交流 40.2% | 2 . 部・サークル活動 48.5% |
| 3 . 就職するための準備 5.3% | 4 . アルバイト 53.8% |
| 5 . 趣味 31.1% | 6 . ギャンブル 3% |
| 7 . 旅行 1.5% | 8 . 自由を満喫する 6.1% |
| 9 . その他 5.3% | |

問3 あなたが授業を選ぶ際に重要だと思う要素は何ですか。(○は2つ以内)

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 . 専門的なことを学べる 53.8% | 2 . 内容が取り組みやすい 25.8% |
| 3 . 自分の手で作品を作ることが出来る 15.9% | 4 . 教員の授業が面白い 47% |
| 5 . 出席のチェックの有無 5.3% | 6 . 教員に親近感がある 6.8% |
| 7 . 休みをうまく作る 8.3% | 8 . 授業間の空き時間対策 2.3% |
| 9 . 単位習得の難易度 24.2% | 10 . その他 3% |

問4 あなたのこれまでの授業平均出席率はどのくらいですか。(○はひとつだけ)

- | | | | |
|--------------|-------|--------------|-------|
| 1 . 50%未満 | 1.5% | 2 . 50～70%未満 | 22.7% |
| 3 . 70～90%未満 | 36.4% | 4 . 90～100% | 39.4% |

問5 大学卒業直後の進路はどうしたいと考えていますか。(○はひとつだけ)

- | | | | |
|--------------|-------|---------------|-------|
| 1 . 民間企業 | 67.4% | 2 . 公務員 | 6.1% |
| 3 . 小中高教員 | 2.3% | 4 . 大学教員 | 2.3% |
| 5 . 大学院 | 2.3% | 6 . 起業家 | |
| 7 . 各種資格試験受験 | 1.5% | 8 . 留学 | 0.8% |
| 9 . 専門学校進学 | | 10 . フリーター | |
| 11 . 派遣社員 | | 12 . 未定 → 問8へ | 13.6% |
| 13 . その他 | 6.1% | | |

付問1 あなたは就職浪人やフリーターという道を選んででもあなたの夢をかなえたいですか。

- | | | | |
|--------|-------|---------|-------|
| 1 . はい | 37.7% | 2 . いいえ | 62.3% |
|--------|-------|---------|-------|

問6 その進路を考え始めたのはいつからですか。(○はひとつだけ)

- | | | | | | |
|----------------------|-------|-------------|------|------------|-------|
| 1 . 中学生の頃から | 11.8% | 2 . 高校生の頃から | 40% | 3 . 大学1～2年 | 26.4% |
| 4 . 大学3年 | 14.5% | 5 . 大学4年 | 7.3% | | |
| 6 . 高校卒業後、一度社会に出してから | | | | | |

問7 その進路先を希望する理由は何ですか。(○は2つ以内)

- | | | | |
|-------------------|-------|----------------------|-------|
| 1 . 好きだから | 59.5% | 2 . 将来性がある | 15.3% |
| 3 . 自己成長が望める | 18% | 4 . 社会に貢献できる | 9% |
| 5 . 経済的に自立したい | 10.8% | 6 . 自分の適正にあっている | 18% |
| 7 . 高収入を得たい | 3.6% | 8 . その先の進路に目標とする人がいる | 4.5% |
| 9 . 生活するための収入を得たい | 10.8% | 10 . 社会的地位を得たい | 3.6% |
| 11 . なんとなく | 3.6% | 12 . その他 | |

問8 将来の進路についてどのような不安がありますか。(○は2つ以内)

- | | | | |
|---------------------------------|-------|-------------------|-------|
| 1 . やりたいことが見つからない | 20.9% | 2 . 志望する進路が搾りきれない | 31.0% |
| 3 . 志望する先の情報が少ない | 19.4% | 4 . 志望先に進む能力が無い | 34.9% |
| 5 . 性別・年齢等、自分の能力以外の面で判断され選考に落ちる | 6.2% | | |
| 6 . 進路先でやりたいことが出来るかわからない | 20.2% | | |
| 7 . 志望する進路で自活できるかわからない | 23.3% | | |

問 9 将来設計に向けて、現在どのような準備をしていますか。(○は2つ以内)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 . 留学・語学習得 9.1% | 2 . コンピューター技術習得 19.7% |
| 3 . 学問研究の励む 9.8% | 4 . 企業研究・就職試験対策 8.3% |
| 5 . 資格試験対策 28.8% | 6 . アルバイト 17.8% |
| 7 . 人脈作り、OB.OG 訪問 8.3% | 8 . インターシップ 5.3% |
| 9 . ダブルスクール 1.5% | 10 . その他 4.5% |
| 11 . 特に準備していない 31.8% | |

問 10 今現在アルバイトをしていますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1 . はい 68.2% | 2 . いいえ 31.8% →問 14 へ |
|--------------|-----------------------|

問 11 アルバイト時間は週平均どれくらいですか。(○はひとつだけ)

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| 1 . 5 時間未満 8.8% | 2 . 5 ~ 10 時間未満 15.4% |
| 3 . 10 ~ 15 時間未満 35.2% | 4 . 15 ~ 20 時間未満 22% |
| 5 . 20 ~ 25 時間未満 8.8% | 6 . 25 時間以上 9.9% |

問 12 アルバイトをする理由は何ですか。(○はひとつだけ)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 . 自由に使うお金のため 67.4% | 2 . 将来の就職のため 24.2% |
| 3 . 大学に通うため(学費) 15.7% | 4 . 仕事に生きがいを感じる 2.2% |
| 5 . 時間に余裕があるから 2.2% | |

問 13 アルバイトの中で仕事内容や職場に対する不満はありますか。(○は2つ以内)

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| 1 . 給与の対する不満 40% | 2 . 労働時間に対する不満 13.8% |
| 3 . 上司との人間関係 8.8% | 4 . バイト先での人間関係 18.8% |
| 5 . シフトに対する不満 27.5% | 6 . 交通の便が悪い 10% |
| 7 . バイトに対する待遇が悪い 11.3% | 8 . 労働環境が悪い 6.3% |
| 9 . 仕事の内容に向上心がもてない 16.3% | |
| 10 . | |

問 14 身近に社会でフリーターと呼ばれる知り合いはいますか。(○はひとつだけ)

- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1 . はい 62.3% | 2 . いいえ 36.9% →問 16 へ |
|--------------|-----------------------|

問 15 身近にいるフリーターの知り合いは何人ぐらいいますか。(○はひとつだけ)

- | | | | |
|-----------------|--------------------|--------------------|------------|
| 1 . 5 人未満 73.8% | 2 . 5 ~ 10 人 21.4% | 3 . 10 ~ 15 人 4.8% | 4 . 15 人以上 |
|-----------------|--------------------|--------------------|------------|

問 1 6 あなたはフリーターのように定職に就かないで生活していけると思いませんか。
(○はひとつだけ)

1 . はい 27.3% 2 . いいえ 72.7%

問 1 7 両親と就職や将来の話をしますか。(○はひとつだけ)

1 . はい 76.5% 2 . いいえ 23.5% → F 1 へ

問 1 8 両親とそのような話をするとき考え方のギャップを感じますか。(○はひとつだけ)

1 .感じる 16.5% 2 .やや感じる 45.6%
3 .あまり感じない 28.2% 4 .感じない 9.7%

最後にあなた自身についてお伺いします。

F 1 性別 (○はひとつだけ)

1 . 男 50% 2 . 女 50%

F 2 入試形態 (○はひとつだけ)

1 . 一般入試 70.5% 2 . 推薦 29.5%

F 3 学部 (○はひとつだけ)

1 . 経営情報学科 15.9% 2 . 情報システム学科 16.7% 3 . 広報学科
60.6%
4 . 国際コミュニケーション学科 5 . 国際関係学科 6.8% 6 . 短期大学部

F 4 学年 (○はひとつだけ)

1 . 2 年 39.4% 2 . 3 年 44.7% 3 . 4 年 15.9% 4 . 5 年以上

F 5 住居形態 (○はひとつだけ)

1 . 自宅学生 38.6% 2 . 自宅外学生 61.4%

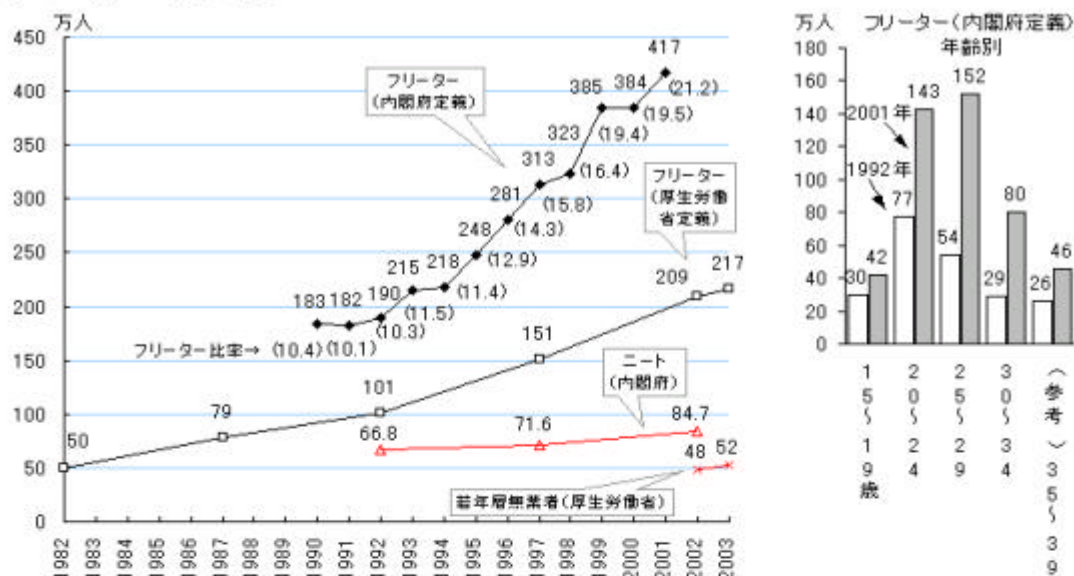
F 6 出身地 (○はひとつだけ)

1 . 東北・北海道 8.3% 2 . 群馬・栃木・茨城 18.2%
3 . 埼玉・千葉 8.3% 4 . 東京都・神奈川 40.9%
6 . 中部 17.4% 7 . 近畿および以西 3.8%
8 . 海外 3.0%

以上でアンケートは終了です。誠にありがとうございました。

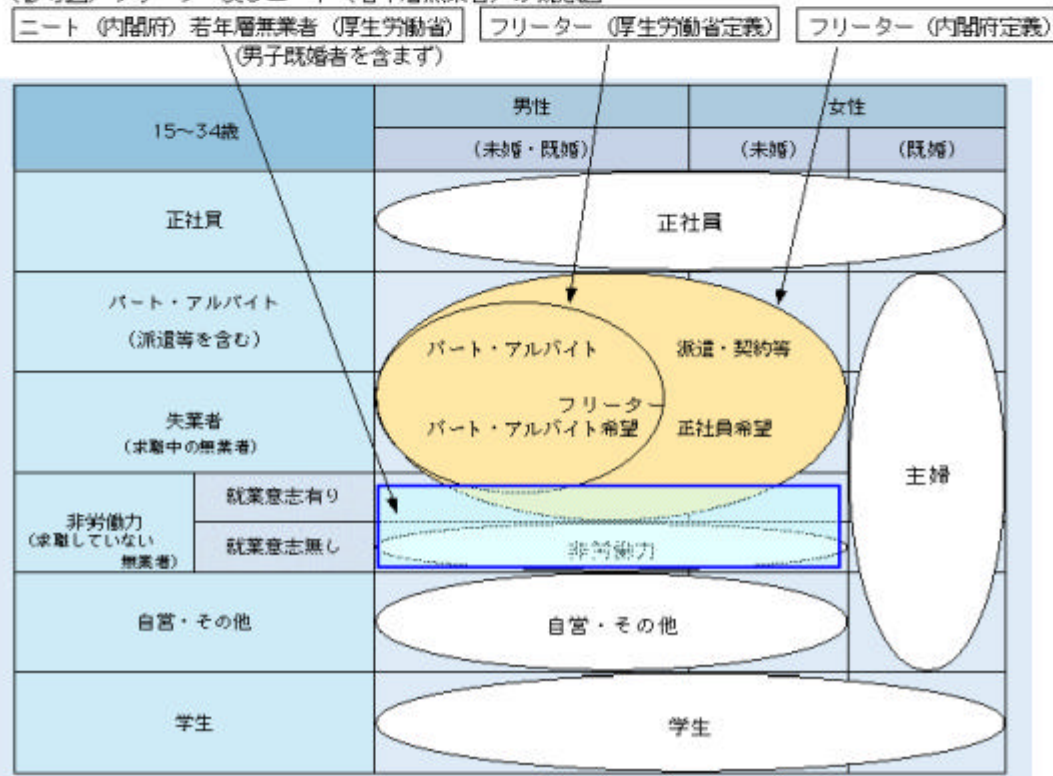
資料2

フリーター数・ニート数の推移



(注) フリーターは、学生・主婦を除く15～34歳人口のうちパート・アルバイト等、あるいは無業者で仕事を希望する者。内閣府定義のカッコ内数字はフリーター比率であり学生・主婦を除く15～34歳人口のうちフリーターの割合(%)。厚生労働省定義も1982～1997年と2002年以降とは若干異なる。ニート(内閣府:家事手伝い含む)、若年層無業者(厚生労働省:家事手伝い含まず)は、非労働力人口のうち、15～34歳で卒業かつ未婚であり、通学や家事を行っていない者。詳細は下図参照。
(資料) 内閣府「平成15年版国民生活白書」「若年無業者に関する調査(中間報告)」(05年3月)、厚生労働省「平成16年度版労働経済の分析(労働白書)」(原資料は総務省統計局「就業構造基本調査」「労働力調査」)

(参考図) フリーター及びニート(若年層無業者)の概念図



- この資料はフリーターやニートと呼ばれる人たちの変化をグラフ化したものである。
- 今現在フリーターとニートの定義を分かりやすく表したものです。